名誉会員の推挙に寄せて

白澤　政和　新名誉会員

【本学会役員歴】
第 19 期　理事（3 年）
第 20 期　理事（3 年）
第 22 期（第 1 期）副会長（3 年）
第 23 期（第 2 期）会長（2 年）

役員通算 4 期（11 年）

この度は、日本の社会福祉をリードしてきた日本社会福祉学会から名誉会員のご推挙いただき、大変光栄に思っています。

私は現在も大学で主に修士課程、博士課程、および研究生の25名程度の論文指導を中心に仕事をしています。高齢者の研究をしてきたので、長年にわたり議論されてきた活動理論と離脱理論が気になります。現在の心境は、社会の側からの制約も大きいですが、活動思考から離脱思考に変化していることを実感しています。文部科学省の科学研究費をこの30年近く連続していただいてきましたが、今回は申請しない決断をしました。この決断には、離脱思考に変化していく私があると思います。ただ、活動の限界を見極めながら、教育等での活動思考する私が依然としてあることも事実です。

以上のような活動理論から離脱理論に徐々に変化している私ですが、毎週オンラインで真剣勝負の思いでゼミを行っており、毎年数名の博士の学位が出せていることがうれしい限りです。そのこともあり、昨年度、大学のベストメンター賞（博士課程）の栄に浴しました。また、日本ソーシャルワークセンターの代表として、子ども家庭ソーシャルワーク資格を確立することに関わっています。今年度はじめての子ども家庭ソーシャルワーカーが誕生することを楽しみにしています。

年を取ると昔話が多いと言われますが、私のその一人で、昔のことしか覚えていないのかもしれません。日本社会福祉学会の思い出で最も印象に残っていることは、初めて理事をやらせていただいた時に、編集委員長という大役が与えられました。その当時の学会誌はB5版の白表紙であり、編集委員会はあるが、査読委員もおらず、編集委員が査読をしていました。それで、岩田正美先生、冷水豊先生等に編集委員になっていただき、学会誌の抜本的改革を行ったことが最も心に残っています。まずは、雑誌編纂の事務局をワールドプランニングに外部委託し、査読委員制度を作り、投稿から掲載までの手順を示し、また学会誌の体裁を現在のカラー刷りのA4版に変更したことです。これによって、急に投稿論文が急増したことを覚えていますが、今後益々、学会の顔として、多くの論文が掲載される学会誌に一層発展することを期待しています。

もうひとつの思い出は、理事の第2期目で、大橋理事長のもとで、学会事務局長として、学会50周年を迎えて、会員の励みになる事業をするようにとの命を受け、学会賞を創設することを提案し、理事会で認めていただいたことです。この賞を目標にして、会員の皆さんには研鑽を積んでほしいと願っています。

今年の秋季大会に出席させていただきましたが、大変盛会でした。学会の今後の益々の発展を祈念しています。